

亜熱帯環境下での果樹の安定生産に関する研究

植物資源科学プログラム・熱帯果樹園芸学 香西直子

<https://www.agri.kagoshima-u.ac.jp/agri/agri0008/>

研究の背景および目的

九州の南端に位置する鹿児島県は、冷涼な気候を好む温帯落葉果樹にとっては栽培の南限ですが、温暖な気候を好む亜熱帯果樹にとっては栽培の北限でもあります。鹿児島はどちらの果樹も見られるユニークな環境ではありますが、一方で気候変動がもたらす様々な問題に直面する地域であるともいえます。栽培が困難になりつつある温帯落葉果樹と、まだ新しい熱帯・亜熱帯果樹について、安定生産を目指した研究を行っています。

おもな研究内容

<温帯落葉果樹の研究>

- ◆奄美大島では、冬季の低温にほとんど遭遇しないにもかかわらず落葉温帯果樹であるニホンスモモ「花螺李」が栽培されています。その珍しい生育特性を明らかにするため、低温要求量や果実特性の調査などをおこなっています。
- ◆モモでは温暖化に適応しているとして近年注目されている少低温要求性品種について、鹿児島における開花期や結実特性、果実品質について調査しています。
- ◆アーモンドも低温要求量が少ないため、鹿児島での栽培が期待されていますが、栽培はまだ始まったばかりです。土壌水分管理や受粉方法などの研究をおこなっています。

<熱帯・亜熱帯果樹の研究>

- ◆アボカドは近年急速に人気が高まっている亜熱帯果樹の一つであり、高品質な国産果実の生産が期待されています。安定生産を目指した栽培管理技術の開発をおこなっています。
- ◆ライチも人気の高い亜熱帯果樹ですが、鹿児島には江戸時代から栽培されてきた歴史があることは意外と知られていません。その理由の一つである結実の不安定さを克服するため、様々な栽培実験をおこなっています。



期待される効果・応用分野

温暖化は今後ますます進むと予測されます。暖地に適したモモやスモモの研究は、今後温暖化の影響が心配される他の地域での栽培や育種への活用が期待されます。さらに、アーモンドやアボカド、ライチについては、まだ日本での栽培経験が浅いため、栽培技術の開発は導入を検討している地域においても役立つ情報となります。